

レジュメ：志村多様体と K3 曲面：Tate 予想への応用

松本雄也

本講演に関するノート [松本 15] (講演より詳しい) を書きましたので、興味のある方はそちらもご参照ください。

講演アブストラクト

有限体上の滑らかな射影的代数多様体の Tate 予想とは、その多様体上のサイクルの存在に関する予想である。最近 Madapusi Pera [MP15] により、有限体上の任意の K3 曲面 (ただし標数 2 を除く) について Tate 予想が成立することが、直交群の志村多様体の整モデルの構成の帰結として証明された。

本講演では、Tate 予想および K3 曲面について解説したのち、Madapusi Pera による証明を解説する。

レジュメ

1. Tate 予想.

定理 (アーベル多様体の Tate 予想). k を有限生成体とし, A, B を k 上のアーベル多様体とする. $T_l(A) := \varprojlim_m A[l^m](\bar{k})$ を l 進 Tate 加群とする. このとき, 自然な射 $\mathrm{Hom}_k(A, B) \otimes \mathbb{Z}_l \rightarrow \mathrm{Hom}_{\Gamma_k}(T_l(A), T_l(B))$ は全単射である (少なくとも標数 $\neq 2$ では). Γ_k は絶対ガロア群.

予想 (Tate 予想). k を有限生成体とし, X を k 上の滑らかな射影的代数多様体とする. 余次元 i のサイクルのなす加群を $Z^i(X)$ とおく. このとき, 自然な射 $Z^i(X) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Q}_l \rightarrow H_{\mathrm{et}}^{2i}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l)(i)^{\Gamma_k}$ は全射である.

定理 ([MP15], 本講演の主定理). 標数 ≥ 3 の有限生成体上の K3 曲面に対し Tate 予想が成り立つ.

2. K3 曲面. K3 曲面の 偏極 とは ample な線束の線形同値類 (=代数的同値類). 他の元の非自明な整数倍にならないとき原始的という.

M_{2d}° : 次数 $2d$ の原始的な偏極つき K3 曲面のモジュライ空間. ($\mathbb{Z}[1/2]$ 上で考える.)

格子 (L, q) とは, 有限生成自由 \mathbb{Z} 加群 L + 対称双線形 $q: L \times L \rightarrow \mathbb{Z}$.

U : 双曲平面: 階数 2, $e^2 = f^2 = 0$, $ef = 1$. 符号 $(+1, -1)$.

$E_8(-1)$: E_8 ルート系の定める格子の q を -1 倍したもの. 符号 $(+0, -8)$.

$L_{K3} := U^{\oplus 3} \oplus E_8(-1)^{\oplus 2}$: K3 曲面の H^2 はこの形. 符号 $(+3, -19)$.

Date: 2015/08/11.

$L_{2d} := \langle e - df \rangle \oplus U^{\oplus 2} \oplus E_8(-1)^{\oplus 2}$: 次数 $2d$ 偏極つき K3 曲面の PH^2 はこの形. 符号 $(+2, -19)$.

3. $SO(2, n)$ の志村多様体, K3 曲面の周期写像.

L : 符号 $(+2, -n)$, $n \geq 1$, の格子.

$G_L := SO(L_{\mathbb{Q}})$.

$X_L := \{ \text{有向正定値 2 次元部分空間} \subset L_{\mathbb{R}} \}$
 $= \{ \omega \in \mathbb{P}(L_{\mathbb{C}}) \mid \omega \cdot \omega = 0, \omega \cdot \bar{\omega} > 0 \}$.

$\text{Sh}(L) := \text{Sh}(G_L, X_L)$: 直交群の志村多様体. reflex 体は \mathbb{Q} .

$K_L := \{ g \in SO(L)(\hat{\mathbb{Z}}) \mid g \curvearrowright \check{L}/L \text{ trivial} \} \subset G_L(\mathbb{A}_f)$: コンパクト部分群. レベル. $\check{L} := \text{Hom}(L, \mathbb{Z}) \supset L$.

$\text{Sh}_{K_L}(L)(\mathbb{C}) = G_L(\mathbb{Q}) \backslash (X_L \times G_L(\mathbb{A}_f) / K_L)$. L が U を含むなら, strong approximation より $\text{Sh}_{K_L}(L)(\mathbb{C}) \cong \Gamma_L \backslash X_L$. $L = L_{2d}$ ならば連結. ここで $\Gamma_L = \{ g \in SO(L)(\mathbb{Z}) \mid g \curvearrowright \check{L}/L \text{ trivial} \}$.

また, 直交群 $SO(L_{\mathbb{Q}})$ の代わりに Clifford 群 $\text{GSpin}(L_{\mathbb{Q}})$ (後述) についても同様の構成ができる. $\widetilde{\text{Sh}}(L) = \text{Sh}(\text{GSpin}(L_{\mathbb{Q}}), X_L)$ と書く.

Kisin, Madapusi Pera [MP14]: $p > 2$ で, 多くの L に対し $\text{Sh}(L), \widetilde{\text{Sh}}(L)$ の 整正準モデル $\mathcal{S}(L), \widetilde{\mathcal{S}}(L)$ を構成 ($L = L_{2d}$ の場合は OK) .

偏極つき K3 曲面の 周期写像 $\iota_{\mathbb{C}}: \widetilde{M}_{2d, \mathbb{C}}^{\circ} \rightarrow \text{Sh}(L_{2d})_{\mathbb{C}}$: 大雑把にいうと, (X, ξ) に対し 「 $H^{2,0} \subset PH^2((X, \xi), \mathbb{Z}) \otimes \mathbb{C}$ 」 で $\Gamma_{L_{2d}} \backslash X_{L_{2d}}$ の点を定める. $\widetilde{M}_{2d}^{\circ} \rightarrow M_{2d}^{\circ}$ はとある 2 重被覆.

整正準モデルを用いて $\iota: \widetilde{M}_{2d, \mathbb{Z}[1/2]} \rightarrow \mathcal{S}(L)$ に伸ばす.

定理 (5.8). この ι は étale.

\mathbb{P}^2 : M_{2d}° 上のモチーフ ($\cong l, dR, B$ の実現の集まり). 要するに K3 曲面の PH^2 .

L : $\text{Sh}(L_{2d})$ 上のモチーフ. ι で引き戻すと \mathbb{P}^2 になる.

4. 久賀・佐武構成. $V = (V, q)$: (2 が可逆な可換環 R 上の) 格子に対し, Clifford 代数 $C(V) := (\bigoplus_{m \geq 0} V^{\otimes m}) / \langle v \otimes v - q(v) \mid v \in V \rangle$. 記号 \otimes は省略して書く.

Clifford 群 $\text{GSpin}(V) := \{ g \in C^+(V)^* \mid gVg^{-1} = V \}$. 共役作用が射 $\text{GSpin}(V) \rightarrow SO(V)$ を定める. R が体なら全射で核は \mathbb{G}_m . ここで $C^+(V)$ は偶数次部分.

久賀・佐武構成 (\mathbb{C} 上) : V を重さ 0 の Hodge 構造で, $h^{\pm 1, \mp 1} = 1$, $h^{0,0} = n$, 他は 0 , なるものとし, $-q: V \times V \rightarrow \mathbb{Z}$ が偏極だとする. 例えば偏極つき K3 曲面の $PH^2((X, \xi), \mathbb{Z})(1)$. Hodge 構造を定める $\mathbb{S} \rightarrow SO(V)$ が $\mathbb{S} \rightarrow \text{GSpin}(V)$ に伸び, $\text{GSpin}(V)$ の左作用により $C(V)$ に重さ 1 の偏極可能な Hodge 構造が定まる. 対応するアーベル多様体 A^{KS} を V の (あるいは偏極つき K3 曲面の) 久賀・佐武アーベル多様体 という. 構成より, Hodge 構造の埋め込み $V \subset \text{End } H^1(A^{\text{KS}}, \mathbb{Z})$ がある.

志村多様体の整正準モデルを用いて、この \mathbb{C} 上の構成を $\mathbb{Z}[1/2]$ 上まで拡張する。

A^{KS} の endomorphism は、その (l, crys) の実現 $\in \text{End } H^1$ が PH^2 に入るとき special であるという。

定理 (5.17(4)). special endomorphism の空間 $L(A^{\text{KS}})$ と $\langle \xi \rangle^\perp \subset \text{Pic}(X)$ が同型になる。

5. special endomorphism の Tate 予想.

$\mathbb{L} : \mathcal{S}(L)$ 上の “モチーフ” : 各種 (l, crys) 実現の集まり. $\mathbb{V} := \mathbb{L} \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Q}$.
 $s \in \tilde{\mathcal{S}}(L)(\overline{\mathbb{F}})$ とする.

定理 (6.4). $L(A_s^{\text{KS}}) \otimes \mathbb{Q}_l \rightarrow \varinjlim_m \mathbb{V}_{l,s}^{\text{Fr}_m=1}$ は同型. crys でも同様.

5.17(4) と 6.4 から、標数 ≥ 3 の有限体上の K3 曲面の Tate 予想が従い、有限生成体の場合もそこから簡単な議論で従う。

$I \subset \underline{\text{Aut}}^\circ(A_s^{\text{KS}}) : l, \text{crys}$ での実現が $\text{GSpin}(\mathbb{V}_{l,s})$ に入る最大の閉部分代数群,

$I_l := \varinjlim_m (\text{commutant of } \text{Fr}_m \text{ in } \text{GSpin}(\mathbb{V}_{l,s}))$, とおくと、6.4 の証明は次に帰着される。

定理 (6.10: 久賀・佐武アーベル多様体の special endomorphism の Tate 予想). これこれの条件を満たす l (存在する) に対し、 $I_{\mathbb{Q}_l} \rightarrow I_l$ は同型.

参考文献

- [MP14] Keerthi Madapusi Pera, *Integral canonical models for spin Shimura varieties* (2014), available at <http://arxiv.org/abs/1212.1243v5>.
- [MP15] ———, *The Tate conjecture for K3 surfaces in odd characteristic*, *Invent. Math.* **201** (2015), no. 2, 625–668.
- [松本 15] 松本 雄也, ノート: 志村多様体と K3 曲面: Tate 予想への応用 (2015), available at http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~ymatsu/k3tate_notes.pdf.

東京大学大学院数理科学研究科

E-mail address: ymatsu@ms.u-tokyo.ac.jp